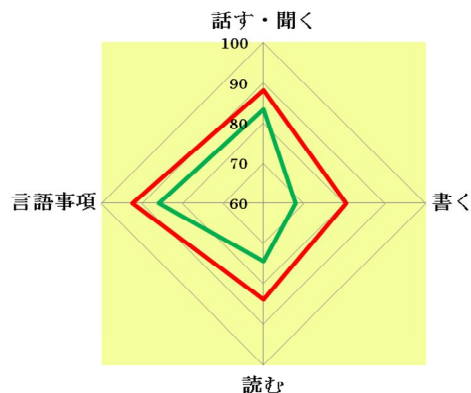
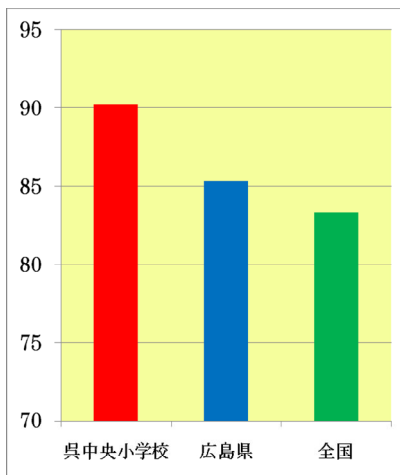


国語A(主として知識)

平均正答率

全国	広島県	呉中央
83.3	85.3	90.2

	話す聞く	書くこと	読むこと	言語事項
全国平均	83.2	67.7	74.1	85.8
広島県平均	86.7	70.4	76.5	87.5
呉中央小平均	88.1	80.4	84.0	92.3



重点課題

- 【言語事項】 既習した漢字の誤りや無回答がみられた。
- 【書く】 適切なつなぎことばを使って、2つの文を1つの文にまとめて書く力が弱い。

今後の対策

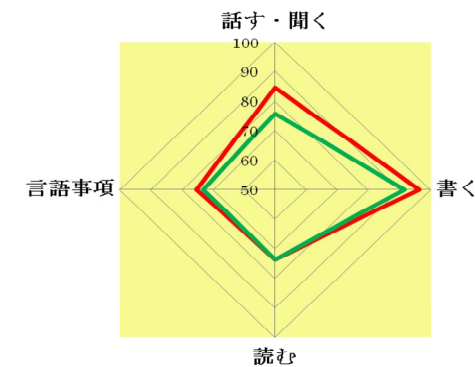
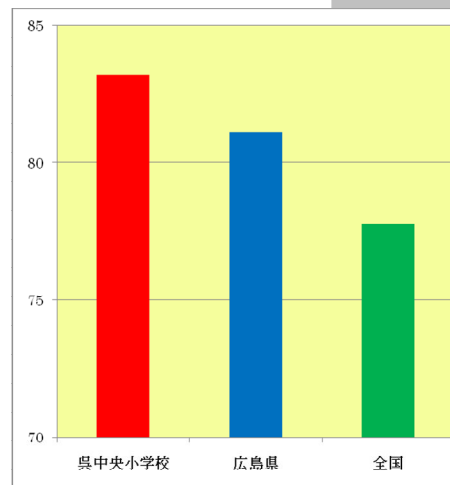
- ① 既習した漢字を繰り返し書く学習に取り組む。スキルタイムやスキルチャレンジの時間を有効に使う。
- ② 一文を二文に分けたり、二文を一文にまとめたり、決められた字数で考えをまとめて書く学習に取り組む。
- ③ 国語科の授業において、文章の要点や要旨をワークシートなどを用いて、整理しながら捉える活動を増やす。
- ④ 中学校国語科の教師による、言語技術向上のための乗り入れ授業を計画的に実施する。

国語B(主として活用)

平均正答率

全国	広島県	呉中央
77.8	81.1	83.2

	話す聞く	書くこと	読むこと	言語事項
全国平均	75.4	91.6	73.4	73.0
広島県平均	79.3	93.2	76.9	75.6
呉中央小平均	84.5	96.4	73.8	75.4



重点課題

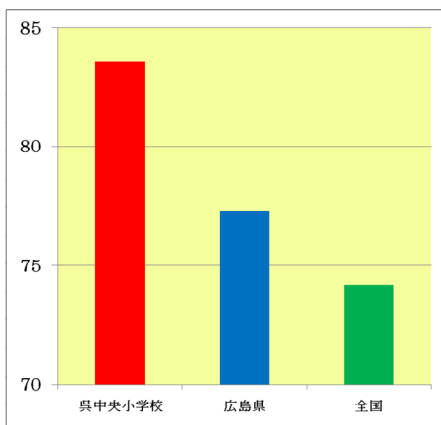
- 【書く】 思ったことや考えたことを根拠を述べながら書く力に課題がある。学力調査の中でも無回答の割合が高かった。
- 【読む】 文章の読み取りの中で、文中の大切なことば（キーワード）を見つけて要約しながら大意をつかんでいく力が弱い。

算数A(主として知識)

平均正答率

全国	広島県	呉中央
74.2	77.3	83.6

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
全国平均	74.1	74.1	83.2	65.7
広島県平均	75.8	77.9	85.6	71.8
呉中央小平均	79.6	85.0	89.7	85.7



重点課題

【数量関係】 数量を等分したときの1つ分を求めるときに、除数が用いられ、商は分数で表すことができることの理解が十分ではない。(34.5%)

今後の対策

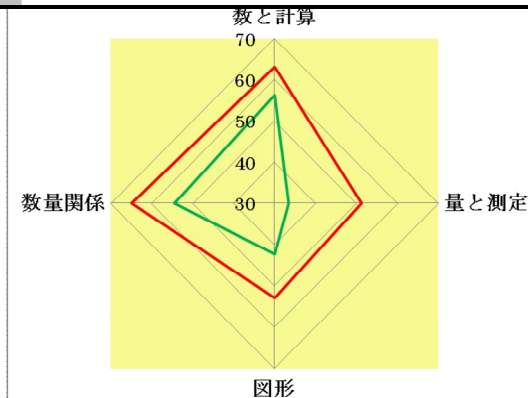
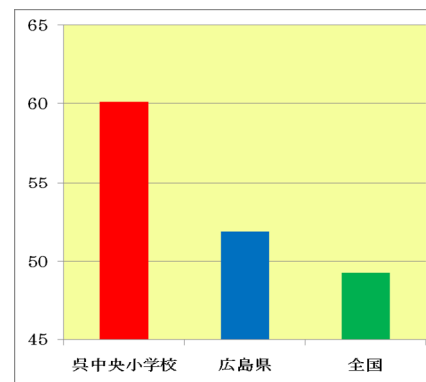
- ① 既習事項を確認しながら6年生の学習に取り組む。
- ② 日常生活と関連付けた体験活動を取り入れる。
- ③ 授業において活用の力をつけるために、キーワードに線を引きながら問題文を読むことや、説明と式、説明と図を対応させながら学習することを積み重ねる。
- ④ 中学校算数科の教師による、課題学習の乗り入れ授業を計画的に実施する。
- ⑤ スキルタイムの継続と、学校と家庭での学習習慣の確立を図る。

算数B(主として活用)

平均正答率

全国	広島県	呉中央
49.3	51.9	60.1

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
全国平均	55.8	33.3	42.0	54.3
広島県平均	57.0	39.4	46.0	56.0
呉中央小平均	63.1	51.2	52.9	64.9



重点課題

【図形】 基本的な平面図形を算数の用語を使つて的確に表現する力が弱い。
 【量と測定】 割合の問題で、なぜそうなるかを必要な用語や式を用いて論理的に説明する力に課題がある。

2 全国学力・学習状況調査と質問紙調査結果

分析および考察	今後の対策
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」などの生き方を問う質問に、肯定的な回答をした児童が90%を超えている。また、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と回答した児童も98.8%と多い。本校の総合的な学習の時間の「夢チャレンジの時間」で取り組んでいる職場訪問や異学年での交流、地域清掃活動の成果が表れていると考えられる。 ○ 「普段(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」との質問に、家庭で1時間以上取り組んでいる児童が約80%、2時間以上取り組んでいる児童が37%であり、県・全国の平均を上回っている。「スキルタイム」や「期末テスト勉強」への取組が成果を上げている。 ○ 「学校で友達と会うのが楽しいですか」との質問に、100%の児童が肯定的な回答をした。 ◇ 「自分にはよいところがあると思う」との質問に、肯定的な回答をした児童が66.3%と少なかった。これは、県や全国と比べても低い割合であった。 ◇ 「携帯電話で通話やメールをしているか」との質問に、33.6%の児童が「経験がある」と回答した。これは、県や全国の平均を10%以上上回っている。携帯電話が原因のトラブルも起こっている。地域に学習塾も多く、帰宅時間が遅くなるため携帯電話を必要とする実態がある。 ◇ 国語科では「原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのが難しい」と回答した児童が、68.3%おり、長い文章を書くことへの抵抗感が大きい。 ◇ 算数科では、「算数B」の解答に「時間が十分ではなかった」と回答した児童が42.7%いた。「算数B」は問題文も長く、問われている内容が一読で捉えられない児童が多いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も、「夢チャレンジの時間」や小中一貫教育のよさを活かしながら、「生きる力」を育む学びを学園全体で進めていく。 ○ 中期においては、自主勉強を進めているので、「学びのすすめ」を活用しながら、家庭との連携を図り引き続き指導を行う。 ○ 目指す学校像「楽しい学校」の実現に向け、積極的な生徒指導や「ふれあいタイム」、「夢チャレンジの時間」に取り組むことで、人間関係を深めてきたことの成果が現れてきた。今後も取組を継続する。 ◇ 一人一人が認められる学級経営の推進、道徳の計画的な実践、月1度の「ふれあいタイム」の中での個別での肯定的なことばかけ等の取組の中で、児童のがんばりやよさを児童自身に認識させていく。家庭との連携を通して、家庭の中でも肯定的な働きかけを意識してもらう。 ◇ 道徳や学級活動において情報モラルの指導を行ってきた。長期休業前には計画的に指導を行うとともに、平素より個に応じた指導を行う。また、「携帯電話の使い方をあまり守っていない」が7.2%、「家庭において使用についての約束がない」が56.6%と高い。保護者に通信を発行したり、学級懇談会において話し合う機会を設けたりして、家庭との連携を深める。 ◇ 中学校教諭による「分かりやすい文章の書き方」の言語技術の指導を継続するとともに、日記や感想文、生活作文など多様な書く機会を積極的に設ける。学力向上推進部から出ている、「書く力の評価表」をもとに全校で取り組んでいく必要がある。 ◇ 算数部会で研修を進めている既習した知識や技能を総合的に活用する力を高める取組を進めるとともに、「ことばの教育」との関連を図り、要旨を読み取る力を育てることも必要となる。